

科目名	【講義 6】職務分析と作業指導	方法	講義・演習	時数	150 分
-----	-----------------	----	-------	----	-------

1. 本科目のねらいと獲得目標

【獲得目標】

- ① 作業指導における課題分析と職務分析の方法を理解する
- ② システマティックインストラクションを通じた作業指導のあり方を理解する

【ねらい】

本講義における作業指導は経験に基づくものではなく、ある程度の理論に基づいた指導の方法を理解することを目的としている。その目的を達成する要素として本講義では、支援員が共通して行える教示方法として「障害特性」「課題分析」「職務分析」「システマティックインストラクション」という 4 つの概念を理解し、より系統だった指導方法に繋げていく事をねらいとしている。

2. 本科目の概要と指導ポイント

科目概要

- (1) 障害特性と作業指導におけるポイント
- (2) 職務分析について
- (3) わかりやすく教える技術と課題分析
- (4) 職務分析と課題分析に関する演習(課題分析を中心に)
- (5) 指示の 4 階層と最小限の介入-システマティックインストラクション-
- (6) システマティックインストラクションの演習
- (7) まとめ

指導ポイント

- (1) 作業指導においては、本人の特性を理解することが必要である。その特性の一つに障害というものがあ、指導者はその理解をまず把握しておくことが必要となることを理解する(講義)。
- (2) 作業においては、まずは自身の作業場や利用者が企業に勤務する場合でも、作業分析が本人の作業能力を発揮するために有効であることを伝える。また、場合によっては、既存の業務が本人の特性によって、適さないことがある。その場合に、「職種創出」が本人の業務の遂行力を高めることがあることを理解する(講義)。
- (3) 作業場面におけるわかりやすい教え方、分かりにくい教え方を説明し、分かりやすい教え方を行うための方法として課題分析・システマティックインストラクションがあることを理解する。
- (4) 新しい仕事を本人に教えていくときの課題分析の方法を実際の演習形式を通して理解する。
- (5) 課題分析と指示の 4 階層のつながりを説明し、どの時点で、どのような方法で教えていくのか、を指示の 4 階層をもとに教示できることを理解する。
- (6) 実際に演習で行った課題分析表を使い、動画をもとに、本人の作業場面での自立の状況を記録していく。また、その記録をもとに動画の中での気づき、本人の特性、本人が最終的に自立するためには何が必要か等を話し合い、特性による指導の方法の工夫を導いていく。
- (7) まとめ
 - ・実際に指示書を使って教えている映像と教え方を工夫して働いている方の映像を見て、ある程度の理論だった教え方が現場でも活用可能であり、その方の自律の手助けになることを伝える。

3. 本科目の展開例

本時の展開		
導入	3 分	この単元のねらいと全体の流れを説明する。
展開1	(講) 5 分	<ul style="list-style-type: none"> ○障害特性と作業指導におけるポイント ・障害特性がその人を知るための手掛かりの一つであることに説明 ・障害特性上、苦手な作業に配置し続けることがその人の労働意欲の低下につながることの説明
展開2	(講) 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ○職務分析について ・職務分析の解説 ・職務創出の解説 ・職務分析・創出だけでは作業指導をうまく行うことはできないことを伝え、次の分かりやすい教え方に繋げる
展開3	(講) 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ○わかりやすく教える技術 ・わかりやすい教え方、分かりにくい教え方の説明を説明し、分かりやすい教え方には課題分析とシステムティックインストラクションの技法が必要であることを説明 ・課題分析の説明
展開4	(演習 I) 60 分	<ul style="list-style-type: none"> ○職務分析と課題分析の実際(5分) ・実際の事例を使い職務分析を再度説明 ・事例の方の職務創出を行い、この方にうまく教えるために課題分析を行うことを解説し演習に繋げる ○課題分析演習(55 分) ・動画(作業を伝える)視聴(5-10 分:2 回見ても可能) ・各自課題分析表(演習用)を用いて作成(15分) ・チームで課題分析表の一本化(20 分) ・発表(10 分)
展開5	10 分	<ul style="list-style-type: none"> ○指示の 4 階層と最小限の介入 ・指示の 4 階層、距離、記録のとり方に関して解説 ・指示の 4 階層、課題分析、最小限の介入を総称してシステムティックインストラクションということを伝える
展開6	45 分	<ul style="list-style-type: none"> ○システムティックインストラクションの演習 ・演習 I で行ったチームごとの課題分析表を基に、動画を視聴し、事例の方について指示の 4 階層の記録を記載することを説明(1 分)。 ・動画の中で気づいたこと、本人の特徴等わかる範囲で記載するよう説明。 ○演習の流れ ・動画(作業)視聴(8分:場合によっては 2 回視聴):動画を見ながら課題分析表(演習用)に記録を取る ・記録の整理(個人ワーク9分):気付いた点を課題分析表(演習用)下部に記載。ここで講師は、事例の方が最後まででは自立していないことを伝え、最

		<p>後まで自立するには何が必要か検討してもらうことを伝える。治具の説明もするとよりよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク(14分):上記の個人ワークをグループで検討。 ・発表(5)
展開7	7分	まとめ